

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子ども発達支援センターフレンズあすわ		公表日		年 月 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・運営・体制整	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	66.70%	33.30%	・サンプルや使用として、視覚的支援のツール、教材を持参のうえ、訪問させていただいていることがあります。 ・園の先生が意欲的に取り組めるように考慮しています。 ・園内での環境・他児との兼ね合いを考慮して行って行かなくてはならないため難しい事があります。 ・データとしては持っているが、実際に訪問して印刷したものを見せることができていません。訪問用のファイルを作って視覚的に見せて協議していきたいです。	・教具教材について、お子さまや保護者の方、訪問先施設や担任の先生等に、適宜、お知らせ(紹介)や説明の機会を持たせていただいています。また、必要に応じて、お話しや貸与等もさせていただきます。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	33.30%	66.70%	・時期など、その時々状況によっては、十分にご対応ができていないことがあります。	・それぞれのお子さまの状態ならびに訪問の頻度や時間等について、確認や調整等を行いつつ、体制等について検討をしていきます。	
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	66.70%	33.30%		・ミーティング等にて、保育所等訪問支援の実施(在り方)等について、振り返り、改善をしていきます。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	66.70%	33.30%	・保護者向け評価表については、今年度よりの導入で、それ以前は、このようなかたちでの把握はできていません。 ・親御さんの想いを聞き、確認しながら進めています。 ・今年度からはじめています。ぜひ業務改善につなげたいです。	・今後、ご相談の機会やモニタリング等の機会に、保護者向け評価表も用いて、意向等を伺わせていただいています。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・難しいケースの場合、他の職員に相談し進めています。 ・上司のヒヤリングを定期的におこなっています。		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	33.30%	66.70%		・今後、検討をしていきます。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・個人的に外部の研修に参加していますが、直接的な内容の研修ではないので、実践報告の場などの必要を感じています。		
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	100%		・関係機関と連絡を取りながら行っています。 ・訪問支援を継続していく中で観察や聞き取りで行動アセスメントしていますが、初回の段階で質問紙や既定の枠組みを活用しているわけではないので、適切とはいえません。訪問継続の中で、目標設定と具体的な支援が話題になり、保護者や園と共有する時間をもていないことも課題ですが、訪問ノートで保護者のニーズをひろえるように活用していきたいです。		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	66.70%	33.30%		・訪問先施設や担任の先生、保護者の方、担当の相談支援専門員の方等、関わる方々とのよりよい共通の理解のもと、保育所等訪問支援計画書の作成が進められるよう、流れやプロセスを見直し、改善をしていきます。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	100%		・先生方の想いを聞きながら、提案を行ったり一緒に検討したりしています。 ・園主導で目標設定や気づきを深めていくことに焦点を当てています。子どもの発達課題や発達順序を意識して積み重ねています。		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		・適宜相談し進めています。 ・支援計画を作成することに担任と保護者と共有し、ケース会議を通して経過を記入し3~4ヶ月スパンで継続して成長や実際の支援を確認しています。		
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	66.70%	33.30%	・インフォーマルなアセスメントは行動観察として、その場面ねらって確認していますが、標準化されたアセスメントは今年度は使用できていません。アセスメントに迷うケースや園や保護者で確認する必要が高い場合に用いることもあるが稀です。	・現在のアセスメントにおいて、不十分であったりしないか確認等をしつつ、必要に応じて、その習得を図ったり、取り入れたりしていきます。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	66.70%	33.30%	・地域の中で周りとのつながりを深めながら参加できることを一番の目標にしています。	・ミーティング等にて、保育所等訪問支援の実施(具体的内容)等について、振り返り、改善をしていきます。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	66.70%	33.30%		・保育所等訪問支援計画書においては、日々の記録も含め、PC上で確認できるようになっており、スタッフ間の共有においての1つとなっています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	66.70%	33.30%	・適宜行っています。		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	66.70%	33.30%	・適宜行っています。		

	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	100%		・ホームページ等で確認をしたりしています。 ・先生方の想いと本人の状況などを考慮して行っています。	
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	100%		・親御さんに報告書として渡しているため、文章に配慮しています。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			・保護者向け評価表の結果より、訪問先施設や担任の先生の意向等の保育所等訪問支援計画への反映が不十分であることを受けて、よりよくあるように、流れやプロセス等の見直しをしつつ、改善をさせていただいていきます。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	66.70%	33.30%		
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		・保護者が主導的にサポートブックを作成できるように支援しています。移行支援会議を5歳児には取り組んでいます。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	66.70%	33.30%		・事業所への外部講師による研修をはじめ、事業所から、あるいは、事業所からの勤めで、外部研修への参加の機会もあります。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	66.70%	33.30%		・事業所から自立支援協議会やその他の関係機関との会議等への参加があります。参加者を介し、それらの情報等を得る機会があります。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	33.30%	66.70%		・当事業所の福井市地域障がい児支援体制強化事業にて、ファミリーワークショップを開催したりしていますが、そのお知らせの方法も含めて、検討、改善をさせていただいていきます。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	100%			
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	100%			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	66.70%	33.30%	・定期的というところでは、十分とは言えず、ご相談があるのに応じてというのが、多いです。	・事業所での対面に限らず、お電話やオンライン、ご自宅への訪問等、それぞれの合った、あるいは、行いやすい方法で、その機会を持っていけるように、紹介・提案したりさせていただいていきます。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		100%	・保育所等訪問のみを利用されている方には十分にお知らせができていません。 ・現在、事業所での父母の会や保護者会等の機会が持ていません。	・当事業所の福井市地域障がい児支援体制強化事業にて、ファミリーワークショップを開催したりしていますが、そのお知らせの方法も含めて、検討、改善をさせていただいていきます。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		100%		・内容や時期等を協議、検討のうえ、決定のこと、方法等をお伝え、お知らせさせていただいていきます。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			・利用契約書の『個人情報に関する取扱いに関する基本方針』にもとづき、ご対応をさせていただいています。
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			・それぞれに応じて、関わり方、視覚的情報、翻訳機等を用い、やりとりをさせていただいています。
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	100%			・訪問時、あるいは、お電話やメール等にて、その都度、やりとりをさせていただいています。

訪問先施設への説明等	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	66.70%	33.30%		・訪問先施設の意向や状況によっては、定期的あるいは定期的なかたちはとっていないことがあります。訪問先施設のご都合のつく時に、お電話等でさせていただくこともあります。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	100%			
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	100%			・訪問先施設の意向や状況等を確認、把握しながら、ご対応をさせていただいています。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			・事業所において、定期的に防災訓練を行っています。また、救急の研修等も行い、知識や対応について、学ぶ機会を持つようにしています。保護者の方等への周知というところでは、十分ではありません。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			・当法人、事業所として、研修の開催、参加にて、その意識と対応をさせていただいています。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%			・当法人、事業所として、研修の開催、参加にて、その意識と対応をさせていただいています。ただし、保育所等不問支援計画書への記載というところでは十分ではありません。必要にもとづいて、関係の方々への説明と了承、保育所等訪問支援計画書への記載をしています。